



HD-300 Assistant

取扱説明書

Ver. 2.00

はじめに

HD-300 Assistant のご利用、ありがとうございます。
このアプリには、HD-300 本体をより便利に使うための機能が搭載されています。
本書をよくお読みいただき、本体と合わせてご活用ください。

このアプリで できること

- **本体機能を拡張する**：リモートコントロール、拍子・テンポメモリ、個別音量 / ピッチ、リズム再生機能
- **本体を使ってハーモニーの感覚を伝える**：体感モード（和音のうなり、バランス）
- **アプリ単体で便利機能を使う**：チューナー、コード判定

目次

基本の使い方

準備

- アプリのダウンロード、インストール
- HD-300 本体との接続

共通操作

- 機能選択：選択メニューから選ぶ
- 機能選択：ショートカットを使う
- 編集操作：選択、変更、削除、決定 / キャンセル

各機能の使い方

機能一覧

(→各画面の説明)

準備

- [アプリのダウンロード、インストール](#)
- [HD-300 本体との接続](#)

共通操作

- [機能選択：選択メニューから選ぶ](#)
- [機能選択：ショートカットを使う](#)
- [編集操作：選択、変更、削除、決定 / キャンセル](#)

アプリのダウンロード、インストール

iPhone/iPad App Store で、「HD-300 Assistant」で検索し、インストールします。

ご注意

iOS/iPad OS のバージョンを 14.3 以降にして本アプリをご使用ください。14.2 以前のバージョンの場合、アプリが予期せぬ動作をしたり、停止したりすることがあります。

NOTE

初回起動時に、マイクの使用と Bluetooth の使用許可を求めるポップアップが出ます。それぞれ [OK] をタップしてください。許可しなかった場合、アプリが正常に動作しません。

起動時に「許可しない」を選んでしまった場合は、iPhone/iPad の [設定] → [HD Assistant] で許可設定をすると、正常に動作するようになります。

HD-300 本体との接続 (1/3)

iPhone/iPad と HD-300 本体との間で、通信用のペアリング（紐付け）操作をします。Bluetooth を使いますが、iPhone/iPad 標準機能の Bluetooth 設定（オーディオ用）とは別の接続です。本アプリ上から設定する必要があります。

1. HD-300 と iPhone/iPad の Bluetooth 機能をオンにします。

1-1. HD-300 の電源を入れ、[設定] ボタンでメニューを開きます。

1-2. [>] ボタンと [-]/[+] ボタンを使って、「Bluetooth」を「On」にします。

NOTE

このとき、「Bluetooth」を「Pairing」にはしないでください。

1-3. iPhone/iPad の Bluetooth を有効にします。

詳しい方法は、iPhone/iPad の取扱説明書を参照してください。

HD-300 本体との接続 (2/3)

2. アプリと本体が通信するためのペアリング設定をします。

2-1. 以下のどちらかを実行して、接続設定画面を開きます。

- ・「HD-300 Assistant」アプリを起動する
- ・アプリが起動済みの場合は、画面右上のをタップする



接続設定画面に、接続可能なデバイスが表示されます。

2-2. デバイス名から、「HD300」を含む名前をタップして、接続処理を開始します。

右側の表示が「未接続」から「接続済み」になったら接続完了です。

3. 画面右上の [完了] をタップして、設定画面を閉じます。

ホーム画面右上の  表示に色が付き、アプリの操作結果と本体の操作結果が同期するようになります。

本体との接続で困ったときは

◆ デバイスが見つからない、または「オフライン」と表示される

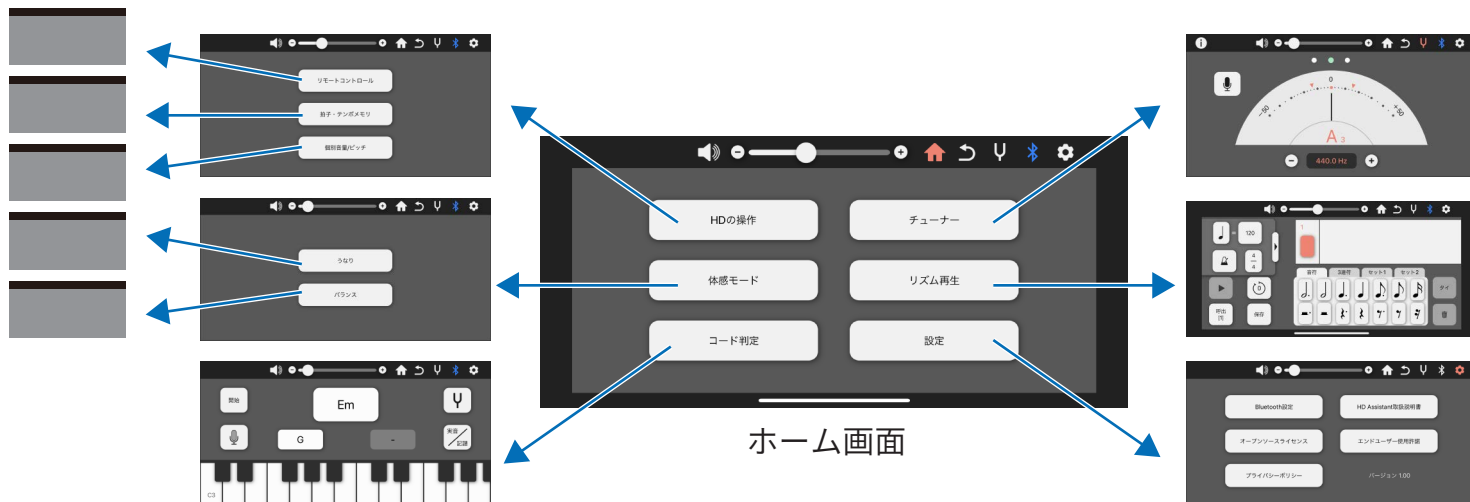
- 本体の電源が入っていることを確認してください。
- 本体の設定で、「Bluetooth」が「On」になっているかを確認してください。
- 本体の電源を一度切り、入れ直してください。

◆ 接続に失敗する

- 本体の電源を一度切り、入れ直してください。
- HD-300 Assistant アプリを一度終了して、再起動してください。
- iPhone/iPad の Bluetooth 機能が有効かどうか、確認してください。
- iPhone/iPad の「設定」→「HD Assistant」で、Bluetooth 通信が許可されているかを確認してください。

機能選択：選択メニューから選ぶ

ホーム画面から白いボタンをタップして移動します。



機能選択：ショートカットを使う

一部の画面を除いて、画面上部にショートカットが常に表示されます。



HD-300 本体の全体音量を調節します。



アプリのホーム画面に移動します。ホーム画面が表示されているときは色がつきます。



一つ前の画面に戻ります。



チューナー画面に移動します。チューナー画面が表示されているときは色がつきます。



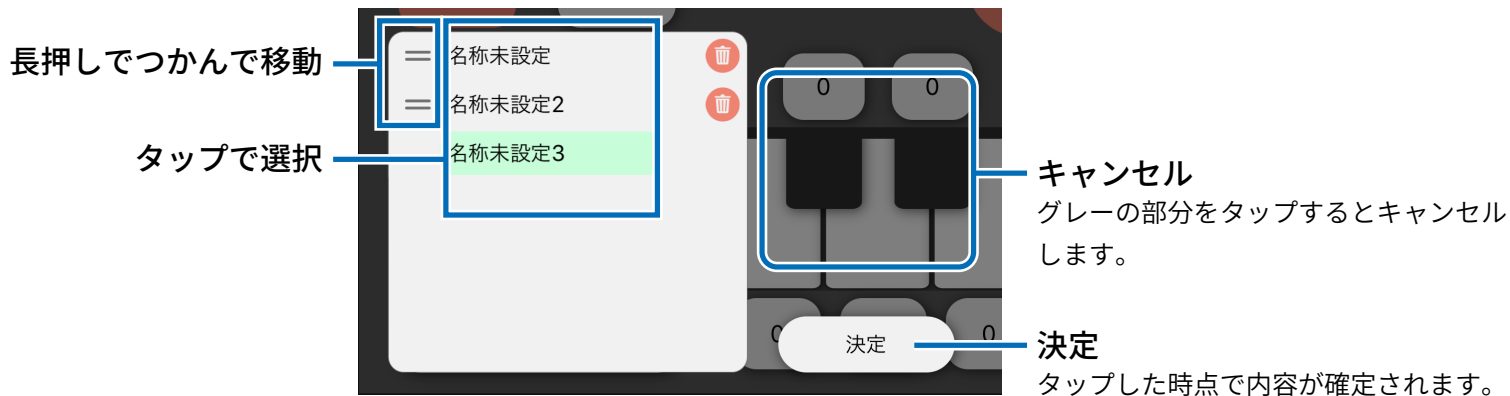
HD-300 本体との接続設定画面を開きます。接続できているときは色がつきます。



設定画面に移動します。設定画面が表示されているときは色がつきます。

編集操作：選択、変更、削除、決定 / キャンセル

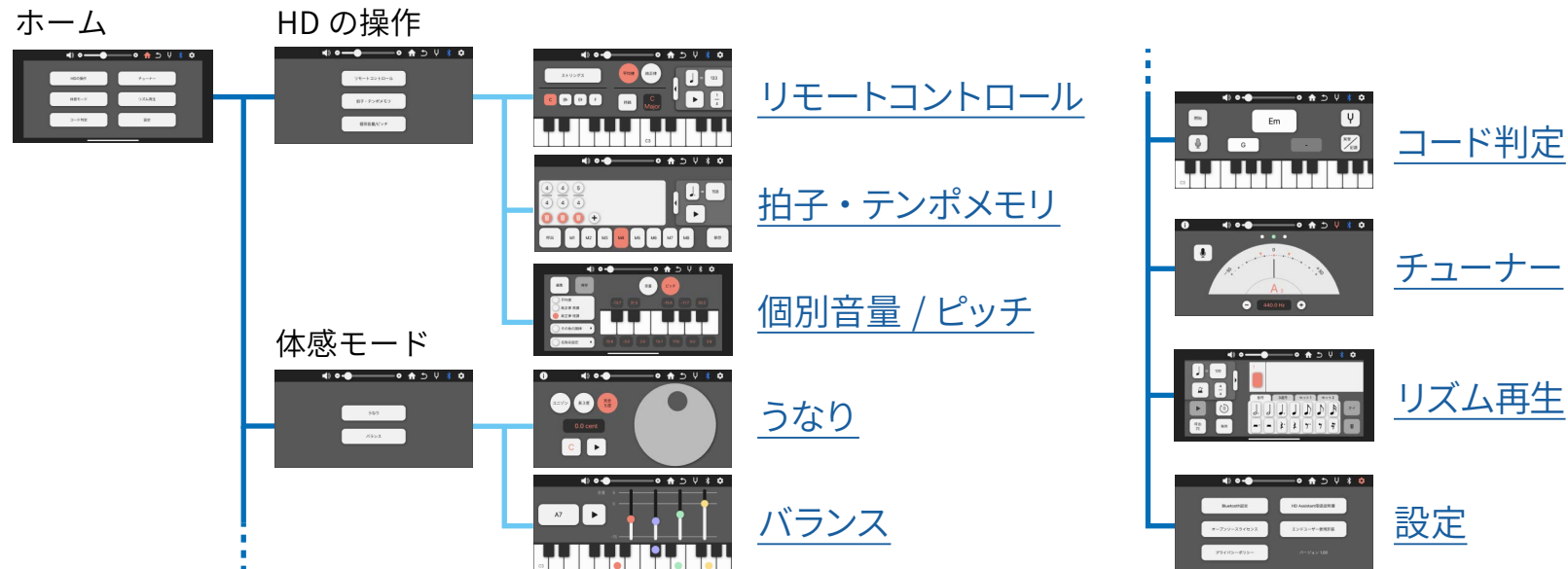
選択や変更、保存などのポップアップが出たときの操作について説明します。



対応するアイテムを削除します。削除については [決定] をタップしなくても確定します。

機能一覧

各機能の画面または機能名をタップすると、各機能の説明ページに移動できます。



接続中の HD-300 本体を、アプリから操作します。

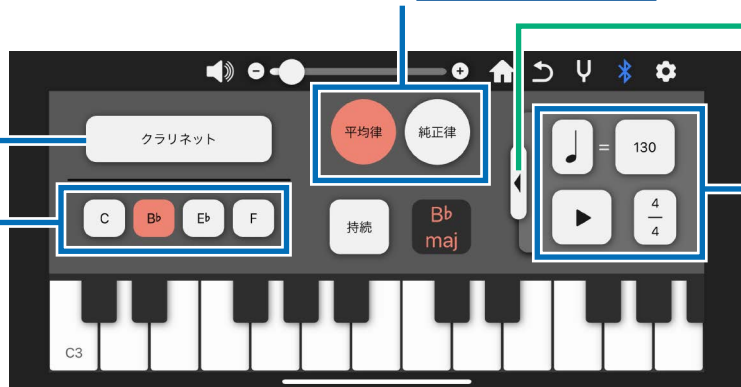
通常時 ①

平均律 / 純正律の選択

(ユーザー音律を使う場合は「[個別音量 / ピッチ](#)」へ)

音色選択

移調



[メトロノーム詳細](#)を開く

メトロノーム操作

テンポ基準音符の確認
テンポ、拍子の確認、設定
メトロノームの再生 / 停止

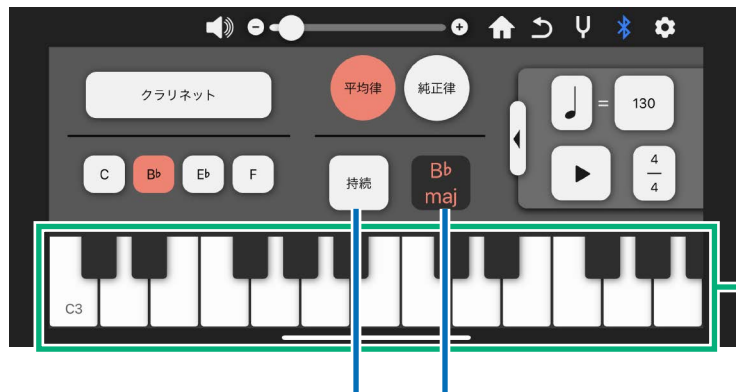
NOTE

[純正律] を選択したときに [純正律] 表示が緑色の場合、調はロックされています。

ロック / ロック解除については、アプリからは変更できません。必要な場合は、本体を直接操作してください。

接続中の HD-300 本体を、アプリから操作します。

通常時 ②



鍵盤

触れた部分を本体に発音させます。
調の入力にも使います。フリックで
オクターブを変更できます。

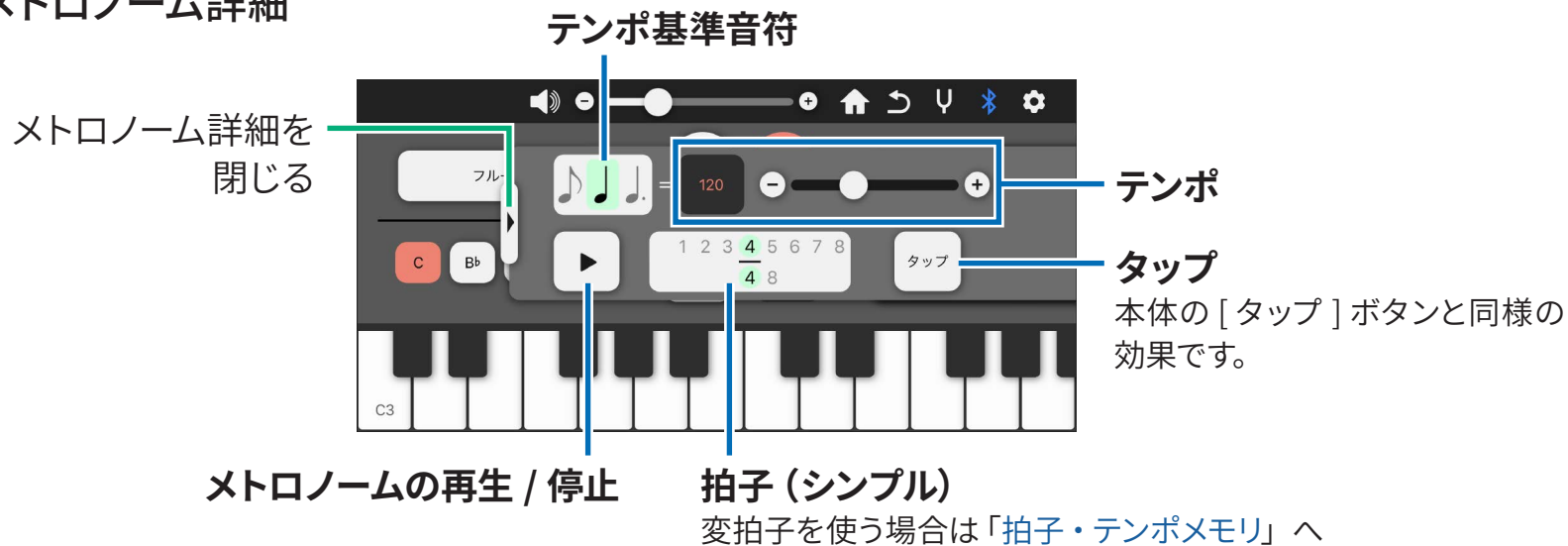
画面内鍵盤の持続オン/オフ

画面内の鍵盤の持続のみをオン/オフします。
本体の持続とはそれぞれ独立しています。

調表示 (→ [NOTE](#))

本体と異なり、コード表示ではなく、
根音と長調系 (maj)/ 短調系 (min) の区別を表示します。

メトロノーム詳細



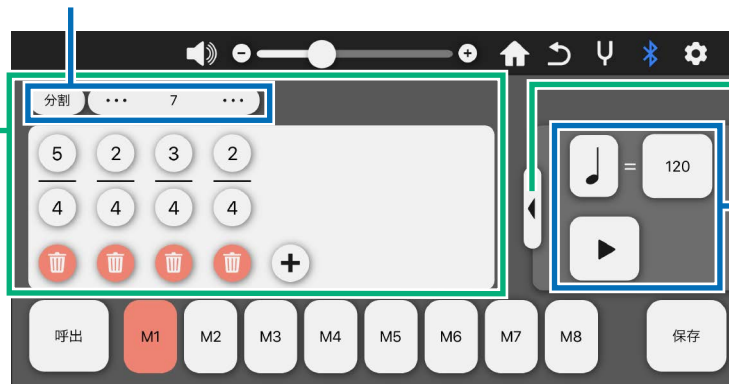
拍子・テンポメモリをコントロールします。
M1 ～ M8 のセットを複数保存して、後から呼び出しできます。

通常時 ①

拍子の分割 / 統合

タップすると対応する拍子の分割案が出てくるので、選んで「決定」をタップすると、拍子を分割できます。再度タップすると分割前の拍子に戻ります。

拍子の編集
拍子の変更 / 追加 / 削除
ができます。



[メトロノーム詳細](#)を開く

メトロノーム操作

テンポ基準音符の確認
テンポ、拍子の確認、設定
メトロノームの再生 / 停止

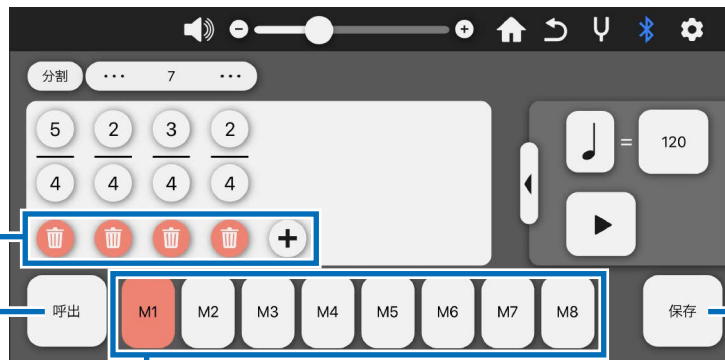
拍子・テンポメモリをコントロールします。
M1 ～ M8 のセットを複数保存して、後から呼び出しできます。

通常時 ②

拍子の追加 / 削除

メモリバンクの呼出

M1 ～ M8 を 1 セットとして、
アプリ内に保存されている
値を呼び出します。



メモリの選択

M1 ～ M8 のどれを編集するかを選びます。
内容は本体にリアルタイムで送信されます。

ご注意

- メモリバンクの呼出を使うと、本体の M1 ～ M8 の内容はアプリ側のデータで上書きされます。必要な場合は、この機能を使う前に保存してください。
- アプリで編集した拍子・テンポは、本体と接続する前に保存してください。

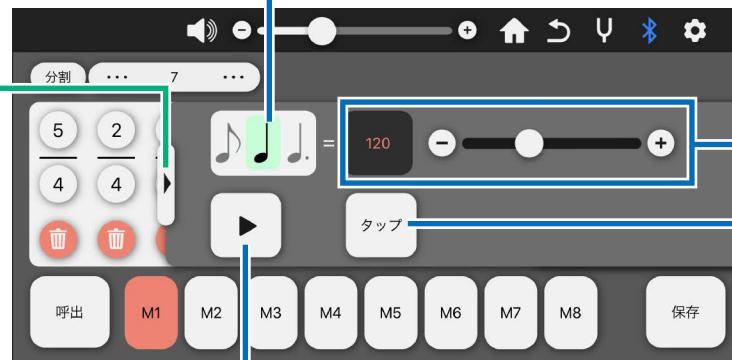
メモリバンクの保存

M1 ～ M8 を 1 セットとして、名前をつけてアプリ内に保存します。

メトロノーム詳細

メトロノーム詳細を
閉じる

テンポ基準音符



テンポ

タップ

本体の [タップ] ボタンと同様の
効果です。

メトロノームの再生 / 停止

個別音量 / ピッチを設定します。本体の音律モードは自動的に「User」に切り替わります。プリセットから設定を選んだり、独自の設定を作って保存 / 呼出ができます。

通常時

編集モードに移行 (次ページ)

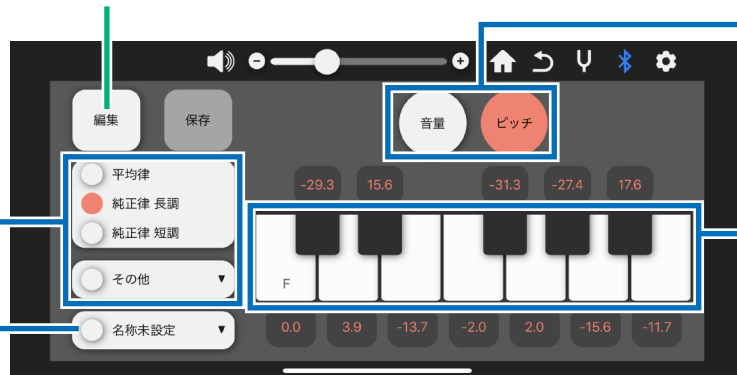
選択中の設定をコピーして、新しい設定を作ります。

プリセット音律

プリセットの音律を選択します。

保存済みの音律

編集 / 保存済みの音律を選択します。



NOTE

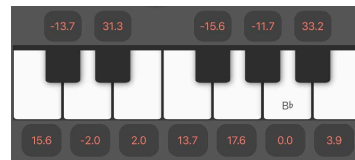
各鍵盤に対応する数字 (音量 / ピッチ) は、通常時は変更できません。編集モードでのみ変更が可能です。

音量 / ピッチ切り替え

鍵盤

触れた部分を本体で発音させます。

この画面では、鍵盤に根音が表示されます。左の図の「F」が長調系の根音の表示例、下の図の「B^b」が短調系の根音の表示例です。



編集時も、数値はリアルタイムで本体に反映されます。

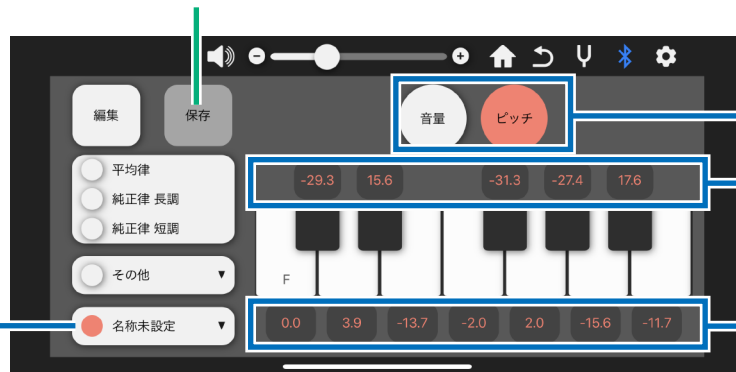
編集モード：編集時

[保存先選択](#)に移行 (次ページ)

編集時の設定を保存します。

編集時の設定名

保存時に名前を編集
できます。



音量 / ピッチ切り替え

各鍵盤の音量 / ピッチ

タップしてポップアップを出し、
数値変更します。

個別音量 / ピッチを保存します。音量とピッチはセットで保存されます。

編集モード：保存先選択

保存済みの設定名

タップしてリネームや削除ができます。
ここに上書き保存することもできます。

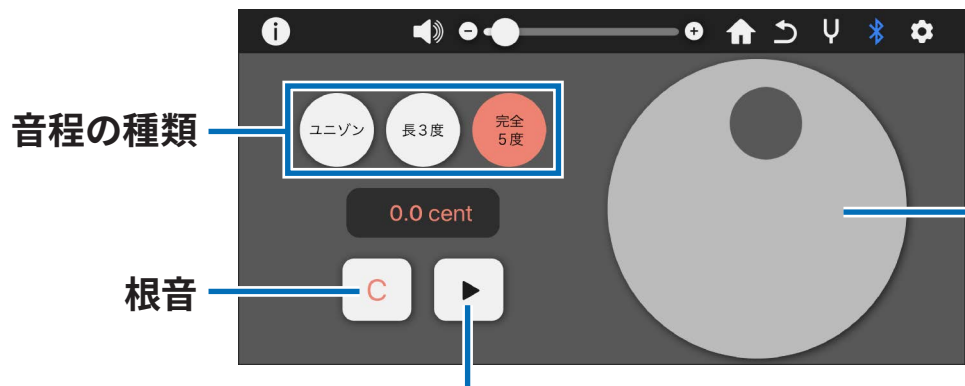
編集中的設定名

ここを選択した状態で決定すると、
新規保存されます。



保存を確定し、[通常時](#)に戻る

HD-300 本体を使って、わずかなピッチのずれによる「うなり」を示します。



音程の種類

根音

音の再生 / 停止

設定した音を本体に発音させます。

ピッチ差調節ダイヤル

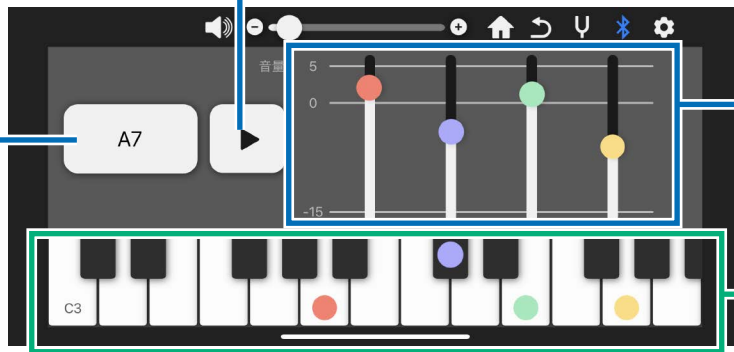
ピッチのずれを調節します。
純正律の音程付近で緑色になります。
ダブルタップで純正律に合わせることができます。

HD-300 本体を使って、和音の音量バランスを示します。

和音の再生 / 停止

設定した音を本体に発音させます。

和音の種類



音量調整スライダー

各スライダーは、鍵盤上の同じ色でマークされた音と連動しています。

鍵盤

触れた部分を本体で発音させます。

iPhone/iPad のマイクを使って、入力音のコードを判定します。

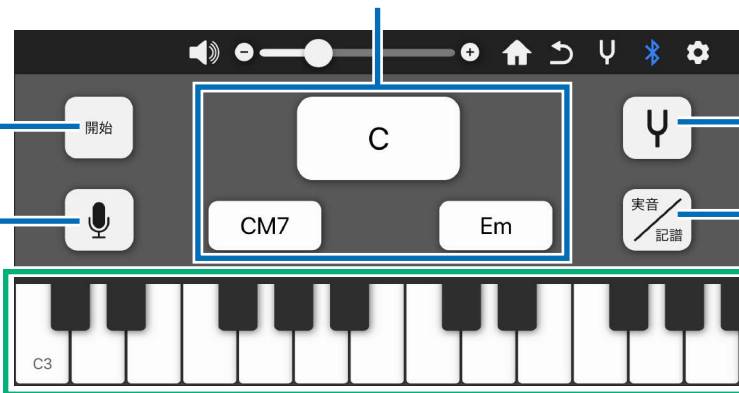
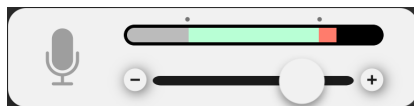
判定結果 (候補)

コード判定結果を最大 3 つ表示します。タップすると、HD-300 本体に和音を発音させることができます。

判定開始 / 停止

マイクの感度調整

タップするとゲージとスライダーが表示されます。マイクからの入力音が緑色の範囲内に収まるようにスライダーを調整します。



鍵盤

触れた部分を本体で発音させます。

チューナーを開く

判定結果を残したままチューナーを呼び出せます。操作方法は[チューナー](#)画面と同じです。

構成音名を見る

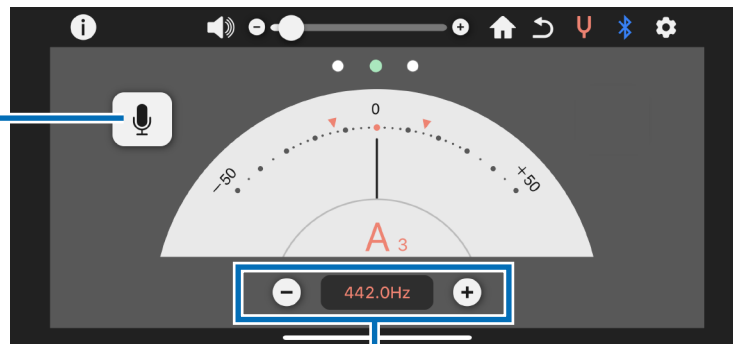
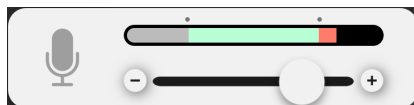
最後にタップした判定結果の和音について、構成音の実音表記と移調表記の対応表を表示します。

コード:	実音	C	E	G
C	in C	ド	ミ	ソ
記譜	in B $\flat$	レ	ファ $\sharp$	ラ
	in E $\flat$	ラ	ド $\sharp$	ミ
	in F	ソ	シ	レ

iPhone/iPad のマイクを使ったチューナー機能です。

マイクの感度調整

タップするとゲージとスライダーが表示されます。マイクからの入力音が緑色の範囲内に収まるようにスライダーを調整します。



基準周波数

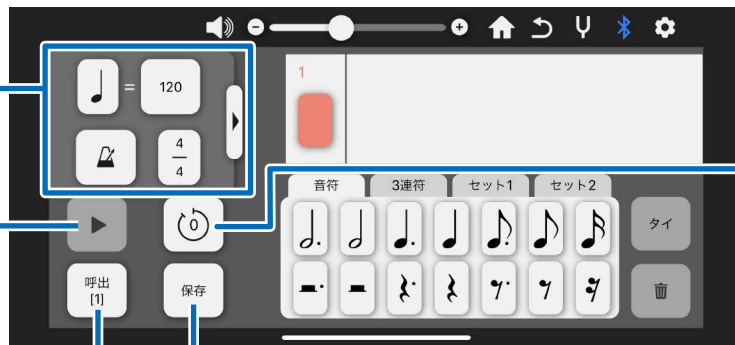
HD-300 の基準周波数と同期します。

本体のリズムスタイルのカスタム1～カスタム8を編集できます。
編集したリズムパターンはアプリ内に保存して、後から呼び出せます。

テンポ・拍子操作

テンポ基準音符の設定
テンポ、拍子の設定
メトロノームの音量設定

リズムパターンの 再生・停止



呼出

保存したリズムパターンを呼び出します。新規に編集するときは、カスタム名を選択します。

保存

入力したリズムパターンをアプリ内に保存します。曲名などのメモも添えて保存できます。

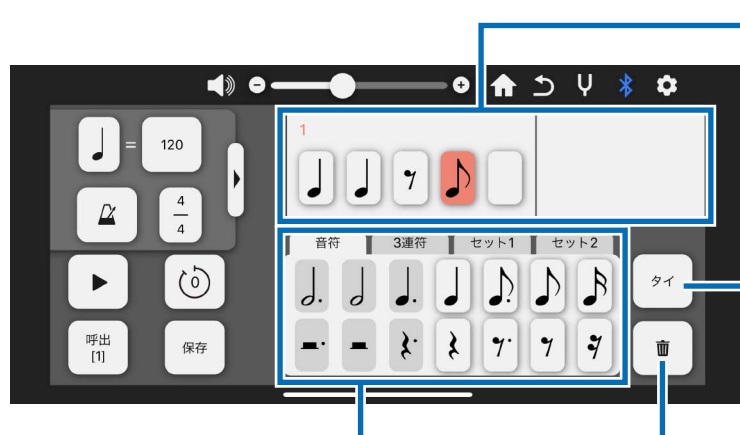
NOTE

編集を始める前に、呼出ボタンを押して編集したいカスタム名を選択してください。

予備拍の設定

リズムパターンを繰り返すときにカウントを加えることができます。不要な場合は0にします。

テンポや拍子、リピート間隔の設定が終わったら、確認したいリズムパターンを入力して、再生・保存します。



リズム譜

リズムパターンを入力します。音符は下から選択します。選択中の音符には色がつきます。拍子設定に応じて、1小節に入力可能な音符の数が決まります。また、小節は自動的に区切られます。最大で2小節まで入力できますが、1小節でも再生できます。

タイ

直後の音符とタイでつなげたいときに、このボタンを押します。

音符・休符

入力したい音符や休符を選択します。

削除

選択中の音符・休符を削除します。

接続設定画面や、ライセンス等の表示、取扱説明書（本書）を呼び出します。
アプリのバージョン番号もここに表示されます。

